

VII. 市民公益活動団体ワークショップ

1. ワークショップ概要

(1) ワークショップの目的

さまざまな分野と現場で活動を展開している市民公益活動団体から、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けて活動の中で感じた変化や、行政とは異なる視点から見える市民目線での意見を、ワークショップ形式で聴取することを目的とした。

(2) ワークショップの日時・対象・テーマ・実施方法

ア 実施日

令和5年（2023年）2月13日（月）

イ 対象

吹田市内で活動する市民公益活動団体

ウ 参加人数

19名

（1 保健・医療・福祉、2 社会教育、3 まちづくり、4 学術・文化・芸術・スポーツ、5 環境、6 地域安全、7 人権・平和、8 男女共同参画、9 子供の健全育成、10 情報化、11 経済活動活性化 などの分野から 18 団体）

エ 意見交換テーマ

- （ア）新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響など、活動する中で感じた変化
行政とは異なる視点から見えたトピックス
- （イ）行政と市民公益活動団体とがさらに協働しながら進めたいこと

オ 実施方法

19名の参加者を、興味のある分野ごとに4グループに分け、「大綱1 人権・市民自治」「大綱3 福祉・健康」「大綱4 子育て・学び」「大綱6 都市形成 / 大綱7 都市魅力」の各テーマで意見交換を行った。

2. ワークショップの結果（総括）

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動拠点の閉鎖や不足、オンラインによる活動の限界、人数制限、活動の目的の見直しなど、様々に制約があり、活動が十分にできていない状況にあるという意見が多くあった。
- ・協働という側面からは、市民公益活動団体と市との連携の難しさや協働の更なる必要性に対する意見が多くあった。

【協働しながら進めたいこと】

- ・市民と行政との協働に向けた仕組みづくりについて、連携強化や交流できる場づくりについて意見があった。
- ・また、今後の課題解決に向けて、市民参画の場づくり、情報の相互共有、広報活動の必要性についても意見があった。

3. ワークショップの結果（詳細）

(1) 各グループでの意見

<p>グループ1（テーマ：大綱1 人権・市民自治） 【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響 <u>活動に制限</u> （人数制限、中止、換気・消毒、活動拠点不足、人材不足等） ● <u>デジタルデバイドの発生</u> （オンライン活動への対応、情報の取り方に差） ● 市民自治 <u>行政と市民の間にギャップ</u> （活動の大切さ、課題の捉え方、行政の役割と活動内容の乖離、立場が対等ではない） <p>【協働しながら進めたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民が交流できる場について協働で考える ・市民の意見などを広く収集して、市政に反映させる ・市民による市政の評価制度や市民活動団体の課題・成果を公表する仕組みづくり 	<p>グループ2（テーマ：大綱3 福祉・健康） 【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響 <u>活動に制限</u> （イベント参加者減、配付物等への懸念、オンラインの限界、活動ができない等） ● 少子高齢化 <u>高齢化に伴う問題</u> （孤立化、認知症の高齢者が増加、8050 問題等） ● <u>地域活動</u> （自治会活動の停滞、子供会の解散、災害時の見守り） <p>【協働しながら進めたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広報活動 ● 仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・移動カフェ、出張相談会、住民が集まれる場 ・団体同士の連携 （社会福祉協議会、地域活動支援センター） ・行政が地域団体の活動を見守る、支援する
<p>グループ3（テーマ：大綱4 子育て・学び） 【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響 <u>活動に制限</u> （オンライン対応が困難な年齢層も、活動が再開できない、活動拠点閉鎖、活動がなくなったことによるストレス、つながりの希薄化による閉鎖的な思考） ● 協働 連携が難しい（NPOと学校）、協働できる場が不足 ● 子供 不登校、子供の自殺 <p>【協働しながら進めたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仕組みづくり 行政と市民、また市民公益活動団体の横のつながりの強化、活動の質の変化の見える化 ● 場づくり イベント実施、居場所づくり、市民参画の場 	<p>グループ4（テーマ：大綱6 都市形成 大綱7 都市魅力） 【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響 活動拠点不足、市民への情報伝達 ● まちづくり <u>若者の参画</u> （40 歳代～60 歳代中心のまちづくり、若者や子供に吹田を好きになってもらう必要） ● <u>市民の参画</u> もっと市民が参画できるように （都市計画、市の政策方針） ● デジタルトランスフォーメーション（DX） デジタル環境への対応の遅れ（施設、スキル） <p>【協働しながら進めたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と団体との連携強化 ・団体同士の連携支援 （市民活動団体、NPO、自治会） ・市民活動団体に所属せずともできる協働のあり方の検討 ・行政と民間との人事交流